

研究・調査報告書

報告書番号	担当
410	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Alcohol drinking patterns and the risk of fatty liver in Japanese men. 日本人男性におけるアルコール飲酒パターンと脂肪肝の危険性	
執筆者	
Hiramine Y, Imamura Y, Uto H, Koriyama C, Horiuchi M, Oketani M, Hosoyamada K, Kusano K, Ido A, Tsubouchi H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Gastroenterol. 46(4):519-528 (2011)	
キーワード	
アルコール性脂肪肝、アルコール、飲酒パターン	
要旨	
背景: アルコールは脂肪肝の主要病因である。しかし、近年の研究では中等度のアルコール摂取は脂肪肝に対して防御的に働くことが示唆されている。脂肪肝の進展におけるアルコール消費の関与を明らかにする目的で、飲酒パターンと脂肪肝罹患率との関連について検討した。	
方法: 通常健康診断を受診した 9,886 名の男性を対象とした。各対象者のアルコール消費の記録はアンケートによって調べた。対象者はアルコール消費量によって非飲酒者、軽度飲酒者、中等度飲酒者、大量飲酒者に分類した (各々0、<20、20-59、 ≥ 60 g/日)。脂肪肝は超音波検査法で確定した。脂肪肝の独立した予測因子はロジスティック回帰分析で解析した。	
結果: 脂肪肝の罹患率は、1日のアルコール消費量の分類に沿って“U字曲線”を示した (非飲酒者 44.7%、軽度飲酒者 39.3%、中等度飲酒者 35.9%、大量飲酒者 40.1%、 $P < 0.001$)。また、脂肪肝の罹患率は、肥満度指標 (BMI) や他の肥満関連疾病と正の相関を示し、一方、アルコール消費量とは逆相関を示した (軽度飲酒者オッズ比 0.71、中等度飲酒者 0.55、大量飲酒者 0.44)。さらに、飲酒パターン (飲酒頻度、飲酒量) の検討結果は、脂肪肝罹患率はアルコール消費の頻度と逆相関 (≥ 21 日/月) (オッズ比 0.62) したが、アルコール消費量との関連は認められなかった。	
結論: 本研究の結果は、男性で、アルコール消費は脂肪肝の進展に対して防御的に働いていることを示唆し、この効果には継続的なアルコール摂取が貢献しているものを考えられる。	